

SSKR I.L.EXPRESS

全国自立生活センター協議会 (JIL)  
Japan Council on Independent Living Centers  
〒192-0046 東京都八王子市明神町4-11-11-1F  
TEL 042-660-7747 FAX 042-660-7746  
E-mail:jil@d1.dion.ne.jp URL http://www.j-il.jp/

# jil 自立情報発信基地

DEC2011

## 東北関東大震災障害者救援本部特集号

～ 復旧ではなく、復興、そして新生へ ～

### ご支援ありがとうございます

全国各地・世界各国からのあたたかいご支援、本当にありがとうございます。

被災地障害者センターでは、障害者の相談支援、見守り、訪問、送迎などの活動が続いています。また被害の大きい沿岸部に拠点を設け、施設や学校の訪問、ポスティング等により、新たな情報収集も随時行なっています。

被災地では、仮設住宅への入居がほぼ完了し、それぞれの生活の再建が取り込まれつつありますが、どこの自治体においても仮設住宅のバリアフリー化について十分な配慮がなされていません。「障害者用の仮設と聞いて入ったのに、トイレも風呂も狭くて使えない。台所にはまともに入れない」という声がセンターに届いています。仮設住宅の周りの砂利が深く、車いすでは移動できない所も多く、障害者・高齢者、小さいお子さんがいらっしゃるご家庭にとっては、不便な場所での困難な生活が続いています。

また福島県では、救援本部東京事務局を中心に、障害者の県外避難について支援を行なっています。個別での県外避難の他、県外での生活をイメージしてもらうための自立生活体験ルームを設置し、体験入居がはじまりました。新潟県での避難受け入れの取り組みも進行しつつあります。

救援本部ではこれまで、ボランティア受入・派遣や支援金呼びかけ、街頭カンパ活動に加え、障害当事者をボランティアとして派遣し、被災地で活動するプロジェクトや、相談支援強化のための研修会の実施、震災直後の被害状況や避難風景、これまでの救援活動について障害者の目線で描く映像資料を作成中です。その他、講演活動や各イベントを随時行なっています。



# 〇〇〇 東日本大震災、障害者救援の動き 〇〇〇

CIL もりおかを中心に 4/12 設立



## 被災地障がい者(支援)センターの活動

被災障害者、団体への救援物資、ボランティア派遣、介助や送迎などの福祉サービスの提供、相談支援。  
被災障害者に関する情報収集、提供、情報交換、政策提言。被害を受けた障害者作業所などの再建支援。

CIL たすけつとを中心に 4/6 設立



被災地障がい者センターいわて

ハックの家 田野畑村

宮古支部 宮古市

AJU自立の家

被災地障がい者センター大船渡

陸前高田市 釜石市

気仙沼市

すずらんとかたつむり

県北支部(登米市)

登米市 南三陸町

被災地障がい者センターみやぎ

被災地障がい者センター石巻

県南支部(亶理町)

仙台市

亶理町

東日本大震災障がい者新潟支援センター (避難障害者受入れ)

飯館村

南相馬市

郡山市

田村市

被災地障がい者支援センターふくしま

福島あいえるの会を中心に 4/6 設立



- 被災地支援拠点
- 被災地支援連携拠点
- × 被害が深刻な地域

震源M9.0  
3月11日14:46

日々の活動。例えば…

- ・被災した方(知的障がい・重度身体障がい)と、日中一緒に過ごす。
- ・流失した就業支援センターの仮事務所へ事務用品の支援。
- ・仮設住宅調査(スロープ設置状況・集会所所有無・障がい者入居状況)
- ・障がい者関係の団体を訪問し、ニーズ調査。つながりを深める。
- ・障がい者関係機関で行われる、連絡会・報告会等への参加。
- 避難所調査 513ヶ所(8/17 現在)、  
救援物資の提供 439 件(〃)、個別支援 376 件

## 被災地からの報告

その1 福島県いわき市

小野 和佳 (いわき自立生活センター)

### 津波に流された仲間

私は地震が起きた時、自立生活センターという場所にいました。突然、携帯のアラームがなりました。他のみんなのアラームも一斉になりました。「この音なんだっけかな」と考えているうちに、大きな揺れが来ました。そして長い時間横揺れがきました。

自立生活センターでは、障害をもった人たちが地域で生活していくためのヘルパーを派遣しています。ヘルパーは障害者の料理を作ったり、お風呂に入ったりトイレに行ったりするのを手伝ってくれる仕事をします。地震が起きて30分ぐらいたった頃、一人のヘルパーさんが顔を真っ青にして、あわてて事務所に帰ってきました。「道路が水浸しで先に進めません。その水の先の障害をもった人の家にヘルパーとして入らなければいけないのに、車でいけません。どうしたらいいのでしょうか。」と駆けつけてきました。津波が到達してしまっ、ヘルパーさんが入れなくなったというのです。その仲間は、結果的に津波に流されてしまいました。

その方は、午前中は私たちと一緒に自立生活センターで活動をしていました。それで2時ぐらいに自宅に帰り、4時に次のヘルパーさんが来るのを待っていました。その間に地震と津波が来て流されてしまったのです。津波が来たことの連絡が来ても、助けてくれる人が誰もいなかったのです。後で家族の人に聞いた話ですけど、家族の人たちは仕事に行っていました、あわてて戻ってきたそうです。ですが、もう津波があつという間に襲ってきていました。障害を持ったその方は、津波が到達する寸前に「もうあきらめましょう」と言っ、自分は津波に流されてしまったそうです。私たちは、こういういうつらい経験をしました。

その自宅に入る予定だったヘルパーさんも、今でもすごく悔やんでいます。ですが、ヘルパーさんが仮にその人の自宅に入れたとしても、果たして助けられたかどうかはわかりません。それだけ恐ろしい津波だったわけです

### 避難所にいけない

自立生活センターには、アパートなどで一人で生活している人が何人もいます。エレベーターを使って自分の家に行きます。そのエレベーターが止まってしまいました。ですから自分の家に帰ることが出来ません。それで自立生活センターに泊まりました。ヘルパーさんたちと一緒に1週間ぐらい泊まりました。

また障害をもった人たちは、「近くの避難所に避難してください」と言われても避難することができません。体育館や小学校には階段があつて行けません。ですから自立生活センターで寝泊りすることになりました。



### いわき市での生活が出来ない

次にどういうことが起きたかということ、食べる物が無くなってしまいました。近くのコンビニからも無くなっていきました。次に病院に通うことが出来なくなりました。障害を持った人たちは、定期的に通院して診察を受けなければならない人や薬の必要な人がたくさんいます。また、ガソリンがなくなってしまっ、自動車で移動することも出来ません。福島県のおわき市というところは、皆さん自動車で移動しています。

それでここでは生活できないと東京の戸山サンライズというところに避難しました。本当だったら近くの避難所に避難しなければならないのです。そこで東京都の自立生活センターの人たちに協力してもらっ、ヘルパーさんをたくさん派

遣してもらい、一ヶ月間避難生活をしました。

また、福島県では原子力発電所の事故が起きました。この事故が起きて、住んでいた人達がいわき市から離れていきました。人が全くいなくなりました。昼間なのにお店も開いてないし、車も人も全く通っていません。それは事故が起こってしまった時に、一番危険だと言われたところがいわき市だったからです。でも皆さんご存知のように、実際には放射線量が多いところは別の地域になっていますが、爆発当初はいわき市だったのです。その瞬間いわき市の人たちは、県外に避難したのです。あっという間にいなくなってしまったのです。

障害をもった人たちは、ヘルパーさんがいないと一人で生活することが出来ません。ヘルパーさんたちも事故を受けて避難したいと言ってきたのです。中には涙を流しながら「家族と一緒に避難をしたいので、申し訳ありませんが、介助ができないのです」と私たちに話しかけました。私たちはどこに行くのもヘルパーさんの手が必要なのです。震災で助けてもらいたいヘルパーさんも避難してしまって、非常に生活しにくくなってしまいました。

障害をもつ人の中には、「お父さんやお母さんは県外に避難してください。自分はいわき市に残ります。」という人もいました。その人の家に行ってみると、ベッドに一人で横になっていて、周りにおむすびを何個も並べていました。自分も一緒に避難すると迷惑をかけてしまうので、家族を先に避難させたのでした。

放射能は目にも見えませんし、色もついていないし、においもありません。だから毎日の暮らしは普通なんです。それで原発事故を受けて、食べ物がない・ガソリンがない・お医者さんにもいけない・薬も飲めないという心配よりも、いわき市から東京に行って、知らないヘルパーさんや今まで生活したことの無いベッドや部屋で生活することの方をずっと心配をする人が多かったのです。障害者たちは震災を受けたリスクよりも違う土地で生活することの方に心配事が大きいと判断したのです。私はこれにはびっくりしました。意外でした。

戸山サンライズに来た人は全部で34名でした。そのうち障害のある人は8名です。それ以外はヘルパーさんやその家族です。1ヶ月ぐらい戸

山サンライズに避難して、4月にいわき市に全員帰ってきました。

### 避難所めぐりで

私たちはいわき市に戻った後、避難所や仮設住宅を回りました。「障害を持った人はいませんか。何か手伝えることはありませんか」と。ですが、不思議なことに障害をもった人たちはなかなか見つかりません。いまだに自宅や入所施設に入っている人が多いのかもしれませんが。

ある時、障害をもつ人のご家族に会いました。その家族は原子力発電所から距離にして5キロぐらいの地域に住んでいました。ところが事故のせいでそこから離れることになってしまいましたが、避難所や仮設住宅に入ることが出来ません。それで親戚や知り合い等いろんなところを転々として生活していました。ある時、学校や避難所の救援物資のおにぎりをもらおうとしました。すると救援物資は避難所か仮設住宅にいる人しかあげることが出来ませんと断られたそうです。泣きながら私たちに訴えました。

このような経験をした人たちは、警察におこられようが福島県の人におこられようが、自分の家に帰りたいのです。その家族は頭を下げながらなんとかようやく借りた一軒家もあと一ヶ月で出て行かなければならない時に、私たちに相談がありました。障害を持った人たちはなかなか住みやすい家を借りられず、避難所にもいけずいろんな人たちにお願いをしながら生活しているのです。

### 伝えたいこと

最後に皆さんに伝えたいのは、震災があったときに国や行政の人たちは、いろいろ助ける準備をしてくれます。ですが、震災はいつ起こるかわかりません。あっという間に大きな被害が起こります。津波の水もあっという間にきます。一番大事なのは、隣近所の人たちで助け合うことです。もし、皆さんが地域で生活しているなかで、障害を持っている方や不便を感じている人がいたら、そういう人たちと日頃からたくさんのかかわりを持ってください。地域の人達が、自分の地域にはこういった障害者がいる、高齢者の方がいる、不便を感じている人がいるということを日頃から知っておくということが大事です。そして日頃から障害を持った人たちと何かしらの方法でかわることをもつともつと増やしてください。

(2011/10/26 小学校での講演記録 要約)

その2 宮城県仙台市

井上 朝子 (CILたすけっと)

震災発生～その時私たちは～

震災発生時はスタッフでほぼ全員集まって事務局で会議をやっていました。会議中の地震だったため主要メンバーの安否確認はすぐ取れました。そして、こんなに長くて大きな地震だと思わないものですから、最初のうちはスタッフが「大丈夫、大丈夫」といって笑っていました。が、だいぶ揺れが大きく強くなってきて、今まで私が経験をしなかったような大きい地震が来たのだとすぐに直感しました。その後の報道で、実際の地震は3分ほどでおさまったと聞いたのですが、当時はもう長くて長くて体感的にはその倍ぐらいに感じました。もうみんなそれぞれが頭をかばったり、車椅子にしがみついたり、かなり必死な状態でした。私たちは脳性まひがほとんどなので、体が引きつったような状態で固まっていました。かなり怖かったのを覚えております。それに私の車椅子は、簡易型電動でかなり軽くできているんですね。地震が大きくなるにつれて、どんどんとぐらぐらしてきて車椅子ごと倒れてしまいそうですごく怖かったです。たまたま傍にいたスタッフが車椅子ごと庇ってくれたので、けがもなくすみましたが、ほんとにその時は転ぶんじゃないかと思って怖かったし、必死でした。

それで地震がおさまってしばらくして外に出てみると、地盤沈下というのでしょうか、それがひどくて歩道や道路がひび割れ、ぼこぼこになっていました。でもまだその時はテレビが映らなかったし、何の情報もなかったので、「大きい地震だったね」「怖かったね」などと言って、自分達の町がそして東北がどんな状況になっているのかまったく知りませんでした。

避難所でなく事務所での寝泊り

震災直後から2～3日は、とりあえず事務所の中でみんなで寝泊りをしていました。事務所は、けっこうひび割れとかいろいろガラスが割れち

ゃったり上の蛍光灯がぶら下がってきたり、けっこうひどいものだったのです。そんな状況の中、もともと相談室になっている小さめの部屋に、最初の一晩は介助者の人と当事者とあわせて14～5名が集まって過ごしました。横になって寝ることができずに、車椅子と車椅子がぎゅうぎゅう詰めな感じで当日の夜をすごしましたね。



私達も一度は地元の避難所になっている小学校にそれぞれにばらけていって、泊まれる状態かどうか様子を見にいったんです。私が行ったのは3月11日の午後4時半だったんですが、もうその時点で長町小学校の体育館は1000人近くの人がどやどやと集まっていました。車椅子の身動きも取れなくて、方向転換すらできない状況になっていました。当然のことながら、トイレには長い列ができていました。身障者用のトイレはあったはずなんですけど、体育館を出て行かなければならない別の場所にあるので、身動きがとれない状況の中、そちらを使うのはまず無理でした。

当時3月11日はすごい寒い日でしたので、ストーブもないような状況でそこに留まるのは無理だろうと判断しました。スタッフの1人が事務所の状況を見に行き、事務所が使えるかどうかを確認した後、車で迎えに来て事務所に入りました。他のメンバーも結局はやっぱり同じような理由で、避難所ではなく事務所のほうにもどってくる形になってしまいました。

それから、事務所に泊まったり、改めて自分で

行ける避難所を探したりしました。その避難所の方々にはお世話になりました。たまたま避難所の方々がとてもいい方で、暖房がある部屋を用意してくださったり、食事を部屋まで運んでくださったり心配りをいただきました。震災直後はそうやって過ごしていたんです。

### 私達にできることは

「たすけっと」は長町という地域にあり、地下鉄が通っているということもあって、震災の翌日には電気が通ったんですね。水も出ている状況でガスだけがなかなか復旧できなかったんですが、翌日の夜からテレビやインターネットやパソコンが使えるようになりました。環境がある程度整ったこともあって、今の状況がどうなっているのかを改めてこの目で見ることができました。それまではラジオを通してしか情報を得られなかったもので、「なんか津波がすごいらしいね」とかそんなことを話しながら一晩を過ごしていたんですが、改めてテレビを見たら「これはちょっと想像以上にひどいよ」と話をして、「自分達も何かできることはないのか」とか、「自分達でも何かしたいね」とか口々に話しました。

そんな時、確かJILの方から物資を被災地のスタッフから聞いて、私達が物資を一旦受け取っている被災した障がい者に配るということに決まりました。そこからCILと障がい者に対する物資提供の活動が始まりました。

まずは全国から届いた物資を障害を持つ仲間一人ひとりに手渡すために、当事者やスタッフが避難所を回りました。そして、そこに障がい者がいるかどうか、何を困っているか、何がほかに困っているか、自分達だけで避難所を回るのには限られていて、私達はどうかと、自分達だけではどうすればいいのかという疑問を抱きました。そこで「物資提供をしています』というチラシを

作る事に決めました。CILたすけっととして『物資を提供しています』というチラシを大量に刷ってですね、健常者スタッフに避難所を回りながら配ってもらいました。そしたらじわじわと反響があってですね、何人かとつながる事ができてきました。あとはチラシだけではなくて、うちの利用者さんとか利用者さんの知り合いとか仲間を通じて、だんだんと「障害を持っている人が困っているよ」という話をいただきました。また「チラシをみたよ」という電話をいただいたり、徐々に徐々にいろんな方々とつながっていくことができました。

3月20日ごろには、ゆめ風基金理事の八幡さんが現地に入ってきてくれました。金銭的なバックアップやボランティアを全国から集めるお手伝いをしてくれるということで、それをきっかけに本格的に被災地障がい者センターみやぎの立ち上げにつながっていくわけです。

### 活動の中で見えてきたもの

活動をすすめる中で見えてきたものとして、やはり大きいのは地域格差です。もともとそれぞれの町が抱えていた課題が、この震災によって浮き彫りになった気がします。地域によってはまだまだ閉鎖的で、障害をもった人は家族が抱え込んでそれが無理になったら施設へという流れが色濃く残っています。その地域で、できれば元気な当事者の方とつながって行って、拠点を作り、自分達が生活をしていくためのニーズをほりだし一緒に考えていく仲間ができてくればいいなあと、思っていて日々活動しているんです。

たすけっととしても、地域の中で安心して暮らし続けられる仲間や町、仲間たちと地域の中で暮らしたいと思ったときに、ずっとその中で暮らし続けられるような体制づくりをどんどん進めていこうと思っています。私達の活動はまだ始まったばかりで、今後1年2年3年と続いていくと思うんですが、皆さんから支えられながら取り組んでいきたいと思っています。

(2011/7/19 JIL 総会講演記録 要約)

## 〇〇〇 会計のご報告 〇〇〇

### 【救援本部の収支報告】

自 平成23年 3月11日至 平成23年 9月31日  
(単位:円)

収入	寄付金	78,447,585	※1	
	助成金	23,000,000	※2	
	雑収入	1,164	受取利息	
	<b>収入合計</b>	<b>101,448,749</b>		
支出	事業費	被災障害者団体支援費	8,602,833	
		被災地センター活動費	10,500,000	
		障害者派遣事業	870,444	
		映像作成事業	1,389,804	
		相談支援強化事業	1,000,000	
		救援物資	5,649,896	現物寄付分含む
		車両費	6,486,010	軽4台、リフト2台
		旅費交通費	2,918,732	
		印刷費	213,858	ポスター等
	小計	37,631,577		
	管理費	人件費	1,329,311	
		備品費	232,631	
		消耗品費	332,214	
		通信費	196,579	
		会議費	28,800	
		雑費	219,799	※3
		小計	2,339,334	
<b>支出合計</b>		<b>39,970,911</b>		
<b>収支差額</b>	<b>61,477,838</b>			

※1 本部:36,265,478円 DPI:42,182,107円

※2 朝日新聞厚生文化事業団より1,800万円、ゆめ風基金より500万円

※3 寄付受領・送金手数料等

◆ これまで、食料品、衣料品、簡易トイレ、使い捨て介護シート、紙おむつ、経腸栄養剤、経口栄養剤、経口保水液、清浄綿、アルコール消毒液、医薬品類、ガソリン、カーナビ、電動アシスト自転車、インバーター、寝具、折りたたみベッド、シャワーチェア、手すり、段差解消材、生活家電製品、ガイガーカウンター等の物資を提供。障害者特有のニーズに対し、柔軟に対応してきました。被災した障害者団体や作業所の再建のための支援も行なっています。

◆ 各支援センター、拠点事務所及び宿泊所は、障害者が使用できるようにトイレやお風呂等の改装を行いました。

◆ 広範囲に渡る支援活動に、車は欠かせません。毎日 200~300km を移動するため、ガソリン代が大きくかかります。また、仮設住宅は、山の上や市街地から離れた所が多く、病院や役所、施設や作業所等への送迎のニーズが高いです。

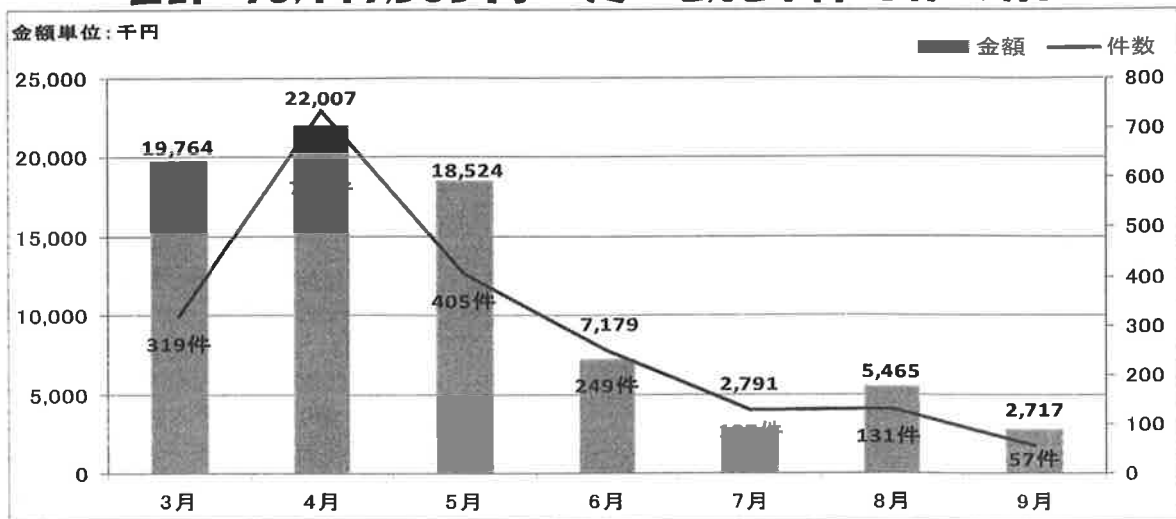
### 【各支援センターの収支報告】

収入	東北本部	いわて	みやぎ	ふくしま	合計
	(4月~9月)	(3月~9月)	(3月~9月)	(4月~7月)	(単位:円)
支援金	-	140,554	363,425	4,290,170	4,794,149
本部・ゆめ風・他助成金※4	23,000,000	14,131,224	40,020,525	11,250,000	65,401,749
雑収入	215	130	20,135	0	20,265
<b>収入合計</b>	<b>23,000,215</b>	<b>14,271,908</b>	<b>40,404,085</b>	<b>15,540,170</b>	<b>70,216,163</b>

※4 内、本部より送金:10,500,000円 ゆめ風基金より送金:53,828,000円

支出	東北本部	いわて	みやぎ	ふくしま	合計	
	(4月~9月)	(3月~9月)	(3月~9月)	(4月~7月)	(単位:円)	
事業費	被災障害者団体支援金	922,855	594,100	994,100	-	1,588,200
	拠点活動費	18,965,048	500,000	5,210,196	-	5,710,196
	スタッフ活動費/食費等	-	801,527	1,088,297	-	1,889,824
	旅費交通費	-	137,970	1,913,978	178,117	2,230,065
	宿泊所経費	-	1,647,547	1,912,175	788,528	4,348,250
	救援物資提供	-	1,715,502	3,812,804	84,890	5,613,196
	車両費/車両購入費	-	335,165	7,046,525	-	7,381,690
	燃料費	-	1,171,518	1,916,723	100,749	3,188,990
	維持費	-	517,269	1,344,108	-	1,861,377
	広報費	-	71,765	38,235	-	110,000
雑費	-	11,235	10,394	-	21,629	
小計	19,887,903	7,503,598	25,287,535	1,152,284	33,943,417	
管理費	専従人件費	3,513,631	1,864,438	4,245,080	510,723	6,620,241
	事務所費/拠点事務所	-	1,976,830	2,455,806	1,919,052	6,351,688
	駐車場	-	88,170	388,500	45,000	521,670
	事務費/通信費	-	129,514	211,822	143,841	485,177
	図書費	-	16,110	89,940	-	106,050
	備品費	-	709,873	1,666,771	1,250,749	3,627,393
	印刷費	-	600	2,320	105,815	108,735
	消耗品費	-	930,099	794,334	1,427,165	3,151,598
租税公課費	-	2,000	3,600	1,000	6,600	
雑費	14,300	16,905	21,551	37,800	76,256	
小計	3,527,931	5,734,539	9,879,724	5,441,145	21,055,408	
<b>支出合計</b>	<b>23,415,834</b>	<b>13,238,137</b>	<b>35,167,259</b>	<b>6,593,429</b>	<b>54,998,825</b>	
<b>収支差額</b>	<b>▲ 415,619</b>	<b>1,033,771</b>	<b>5,236,826</b>	<b>8,946,741</b>	<b>15,217,338</b>	

〇〇〇 皆さまからいただいた支援金 〇〇〇  
 合計 78,447,585円 延べ2,024件 3月~9月まで



個人・企業からの寄付、自立生活センターをはじめ障害者団体の方々による街頭カンパ活動、お店に募金箱を置かれた方や個展・イベント等の収益金、物資提供など、全国各地・世界各国から、応援メッセージとともに支援金が寄せられてきています。直接事務局まで出向いてくださった方もいらっしゃいました。最近では、毎月定期的を送金して下さる方も多く、お名前を覚えてしまうほど。また、被災地での救援活動と救援本部の運営に、様々な形でボランティアとして、たくさんの方々にご協力いただいております。

皆さまに支えられ活動していることを痛感しています。本当にありがとうございます。

●私も車いすで生活をする障害者です。車いすでの避難生活が容易ではないことは想像がつきます。障害者の一人として、スタッフの方々の活動、とても感謝しています(東京都) ●私は生かされてもらいました。生きることでそこに喜怒哀楽があります。それでも尚生きましょう！精一杯生きましょう！！隣に仲間がいます。(愛知県) ●非力ですが少しずつでも皆さんが笑顔で”顔晴れ(がんばれ)”ますように…。願いを込めて(千葉県) ●みんなで夢を抱いて新しい“さずな”、“地域”を創りましょう！離れていても想いが伝わることを信じています(滋賀県) ●被災地の皆様、いっしょにがんばりましょう！！いつもそばにいます。被災地を支援している皆様、いっしょにがんばりましょう！！(大阪府)

東日本大震災発生以降、私たちは「東北関東大震災障害者救援本部」を立ち上げ、東北3県の障害者団体と連携しながら、現地での様々な支援に取り組んできました。

私たちはこれからもずっと、被災障害者支援を、必要な限り継続していきます。

- 3月11日 東日本大震災発生
- 3月16日 東北関東大震災障害者救援本部 発足。支援金の呼びかけ、各地での募金活動を開始
- 3月19日 救援本部 被災地入り。仙台・郡山を拠点に宮城県・福島県の被災障害者救援活動を開始
- 4月6日 被災地障がい者センターみやぎ、ふくしまを開設
- 4月9日 盛岡を拠点に岩手県の被災障害者救援活動を開始
- 4月12日 被災地障がい者センターもりおかを開設

〇〇〇 今後とも皆さまからのご支援をどうぞよろしくお願い致します 〇〇〇

東北関東大震災障害者救援本部

<東京事務局> 全国自立生活センター協議会(JIL)内  
 〒192-0046 東京都八王子市明神町4-11-11 シルクヒルズ大塚1F  
 TEL: 042-631-6620 FAX: 042-660-7746 E-mail: 9enhonbu@gmail.com  
 ホームページ <http://shinsai-syougaisya.blogspot.com/>



《救援活動の状況については、上記のウェブサイトにて、随時ご報告させていただいております》

発行所 東京都世田谷区砧6-26-21  
 障害者団体定期刊行物協会 定価100円